

岡山県立大の伊東秀之教授  
(食品化学)、岡山大学院  
の杉本幸雄准教授(薬理学)

らのグループは9日、岡山県  
産米の代表銘柄「朝日」に、  
アレルギー症状の原因物質が  
できるのを抑える効果がある  
とする研究成果を発表した。  
マウスによる実験でくしゃみ  
などが緩和されたという。  
アレルギー反応は、花粉や  
特定の食べ物などを異物と認  
識すると、体内で特異的Ig  
E抗体を作り、体を守る肥満  
細胞から炎症を起こす物質が  
放出され、くしゃみや鼻水と  
いった症状が現れる。抗体量  
が増えれば症状が悪化する。

実験では、アレルギー性鼻  
炎を生じた状態のマウスを使  
い、精米した朝日、コシヒカ  
リ、きぬむすめを餌にそれぞ

## 朝日米でアレルギー抑制

岡山県立大教授らグループ



伊東秀之教授



杉本幸雄准教授

れ1割混ぜて2週間与えた。  
朝日は通常の餌のみを食べた  
グループに比べて血中の抗体  
量が4割ほど少なく、くしゃ  
みの回数も減った。

コシヒカリは、くしゃみは  
減ったが、抗体量が1割ほど  
しか下がらなかった。きぬむ  
すめは、抗体量を朝日と同程

### マウス実験 くしゃみ緩和

度に抑えられたものの、くし  
やみを減らす効果が弱かつ  
た。ただ、米のどの成分が作  
用したかは解明できておら  
ず、今後の研究が必要という。

伊東教授らはJ A全農おか  
やま(岡山市)、岡山県とと  
もに2016年から研究。今  
回の成果は、神戸市で今月初  
めに開かれた食品の機能性研  
究に関する学会で報告した。  
杉本准教授は「米ぬかの抗ア  
レルギー性に関する論文はあ  
るが、白米で調べた研究はほ  
んどない」としている。

朝日は岡山県の奨励品種の  
一つで、粘りが少なく歯応え  
のあるのが特徴。

(山本友志)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。